

# 「島の森と生きる」

自然の豊かさと共に生きる暮らし

やくしま  
Yakushima

5/13(金)

13:00~17:00

「屋久杉の群生林を見る」

集合場所: 宮之浦港フェリーターミナル

18:00~21:00

「地域交流会」安房公民館

5/14(土)

9:00~15:00

九州森林フォーラムin屋久島

会場: 屋久島町安房総合センター

※詳しくは裏面をご覧ください。

第15回 九州森林フォーラムin屋久島

2011.5/13金 - 14土

参加申込み締切: 2011.4/11月

フォーラム会場: 屋久島町安房総合センター(屋久島町役場安房支所内)  
〒891-4311 鹿児島県熊毛郡屋久島町安房187番地1  
☎0997-46-3221

主催/NPO法人 九州森林ネットワーク

共催/九州森林管理局屋久島森林管理署 屋久島町 屋久島大屋根の会

後援/かごしまどりの基金、屋久島森林組合、屋久島区長連絡協議会、屋久島町商工会、屋久島町観光協会、種子屋久農業協同組合

鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、諸塚村、小国町、耳川広域森林組合、小国町森林組合、トライウッド(申請中含む)

屋久島の山々はかつて霊山として崇められ、神木である屋久杉には、人の手が加えられることはありませんでした。屋久島で生業としての林業が盛んになるのは、17世紀頃。屋久島出身の儒学者: 泊如竹(とまりじょちく)が薩摩藩へ献策したことで、屋久杉の伐採利用が始まりました。島民は、山を神聖な場所として崇め、山の無事を祈りながら、自然と共に生きる林業を生業として生活してきました。

島民が守り続けてきた山は、1993年、世界自然遺産に登録され、年間40万人の観光客が訪れる島になりました。遺産登録で、島民の山との付き合い方も変化してきました。島の林業も、木を資源として使う林業から、山の多機能性に期待した環境保全活動へシフトしてきました。観光産業の経済効果も期待されていますが、一方でさまざまな問題が起きています。急激な登山客の増加は、登山道周辺の自然破壊やゴミ処理、山岳トイレの不足と生活用水汚染の懸念などの問題を生んでいます。入山制限も含め、山の管理のあり方について、さまざまな議論が始まっています。また、観光利用の問題だけでなく、島民の生活の変化もあって、ヤクシカ、ヤクシマザルの生息数増加が、樹木や農作物に大きな損害を与えています。

また、自然遺産エリアや保護区域を囲う地域には、地スギが植林されています。屋久島の地スギは、木目も美しく、強度にも優れた性質があります。さらに、独特の良い香りがします。先人達が植林し、管理を続けてきた地スギが、利活用の時を迎えています。

屋久島の環境保全とその活用について、議論する時が来ているようです。現在、屋久島の森林管理は、国の行う国有林の管理と森林組合等が中心になって行っていますが、観光利用も含め、島民の協力も不可欠です。日々の生活の営みとして、時間をかけた自然との遣り取りの結果できあがってくる風景こそが、屋久島の真実味のある魅力となっていきます。

島の森と生きる。屋久島の素晴らしさとはなんでしょう。その良さを知り、それを生かす生活について、島民の皆さんとともに考えてみましょう。



安房川の霧



なきなた踊り



ボンカン麦生

お問い合わせ先

NPO法人九州森林ネットワーク事務局(諸塚村役場企画課内)TEL.0982-65-1116